



## 認知症 700 万人時代 ともに生きる社会へ

著者  
京都新聞：鈴木雅人・松村和彦  
ISBN  
978-4-7803-1279-9 C0036  
判型  
四六判上製  
ページ数 240 頁  
発行年月日 2023 年 07 月

定価（本体価格 2,000 円＋税）  
かもがわ出版

本書は京都新聞の連載を再構成して作られた書籍です。

本書の帯には

「『なったら終わり』は間違っていた  
世界は、光と色に満ちていた」

とあります。

この病になってしまった人、その家族、そしてその人たちを支援する人々などを丁寧取材しています。

高齢者の現状を描くだけにとどまらず、支援の課題も多くの人を取材して高齢者介護の課題と実像が見えてくる本です。

誰に読んでもらいたいのか？

家族の罹患に戸惑う人、この病に冒された人には希望を見いだす本として読んで頂きたい。

高齢者に関わるケアマネージャーや行政の方々には私たちが克服しなければならない課題を探るために読んで頂きたい。

きょうと福祉倶楽部も登場します。

わたしたちの住む町は高齢者や障がい者のいのちを守っているでしょうか？ 災害でも高齢者や障がい者がもまられる町に

ことしも京都にも台風が襲いました。

そして今回も高齢者等避難指示が発出されました。

わたしたちが生活をお手伝いさせていただいている高齢者や障がい者の多くの方は自分で歩くことが出来なかったり、認知症で危険を回避出来ない人が多数います。またそんな人の介護者も高齢者だったり、独り暮らしであったり。

そんなハンディキャップを持つ人が行政の避難指示だけで安全を確保出来るのでしょうか？

自助、共助が災害からの避難の場面でも行政からは強調されています。

想像してみてください。

暴風雨の中、寝たきりの高齢者を家族の力、地域の力だけで避難させることができますか？  
答は否です。

寝たきりの高齢者を車椅子に乗せることだって熟練した技術が必要です。

やっと車椅子の乗っけても、大雨、強風の中で車に乗せ替えるのは不可能です。

また地域には車椅子ごと乗れる車がある事は奇跡です。あるのは大抵介護施設です。台風などの災害時にはそれらの車は稼働すること無く止まったままです。

つまり、日常と異なった事態に対応できるシステムが乙訓には用意されていません。

それでも、できもしない自助や共助で対応しなさいと言う行政。

わたしたちはいのちを守る明確な意思を持った行政を求めます。

そしてその為にいくつかの提案をさせていただきます。

1. どこにどのような障がいを持った方が誰と住んでいるかを正確に把握するのは前提です。

1. そしてその方々が安全に避難出来るには何を用意することが必要か？誰が用意するのか？

1. だれが避難の準備をするのか？

1. マンパワーが家庭や地域に無ければどこから補充するのか？

いまこれらのことを明確にシステム化した地域はありません。行政のみなさんには地域の介護事業者とこれらの課題を協議する場を設けることが必要です。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う

利用者のみなさんへのお願い

●サービス利用中は可能な限りサービスご利用の方もマスクの着用をお願いします。

●利用者、同居の家族のかたの体調不良(発熱など)はあらかじめきょうと福祉倶楽部までご連絡ください。

有限会社 おとくに福祉研究所

きょうと福祉倶楽部



〒617-0824

長岡京市天神4丁目7-12 ハイッポ舎101号

TEL 075-958-2560

FAX 075-957-2808

E-mail info@fukushi-club.com

